

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	② ③
配架番号	3 A
	14
	33-6

東蘇ニ於ケル蘇軍ノ情

(蘇聯邦軍事参考資料昭和二十年七月十五日参照)

第一要旨

1. 兵力ハ獨蘇戦争前ニ復舊、復ニ於テ戦争末期ニ製作セラレタル新兵器ヲ加ヘ改善セラレタリ。
2. 訓練、赤軍ハ夏季野營訓練スルヲ常トシ本年亦活潑ナル訓練ヲ行ヒツツアリ其訓練ハ次第ニ防勢ヨリ攻勢ニ轉化セリ。
3. 燃料、糧食ノ運送亦行ハレツツアルモ消費ヲ考フルニ此方面ニ於テハ戦争中ノ状態ト大差ナシ。
4. 對滿煽動謀略
低級ナル對自系露人宣傳放送ヲ繼續シツツアルモ謀略ニ關シテハ活潑化セリトハ言ヒ難シ。
5. 兵力東送ハ活潑ニシテ大ナル刺戟ヲ受クルモ政情其他諸種ノ状況ヲ綜合スルニ蘇聯ノ對日政策ハ賦備ヲ整ヘテ太平洋戦局ヲ注視シ發動ノ時機ヲ窺ヒツツ靜謐ヲ保持ニアリ
今時ニ緊迫セリト認メラレサルモ今秋以後彼太平洋戦局ト平行シ彼ノ態度ハ警戒ヲ要スベシ

めくれず

第三海軍 (太平洋艦隊)

1. 歐蘇ヨリ東送兵力約5萬現有兵力7.5萬乃至8萬

2. 艦艇

甲巡「カガノヰイツチ」「カリニオン」電探裝備(視認)
甲巡「カガノヰイツチ」射出機裝備水偵1機ヲ搭載ス(初/6)

昨年11月30日噸級新型驅逐艦出現機裝中ナリシ處速月初頃噸略完成軍艦旗ヲ掲揚セリ
艦名「アリバトロス」ナルガ如シ

乙巡「ソビリス」1.5噸砲門增強
掃海艇8艘×1.5、7噸A.A×2增強
潜水艦約110隻中實動58乃至78兵力東送ニヨリ今後實動數ヲ増加スベシ
獨蘇戰爭中北冰洋艦隊へ移動セル兵力(OLX1 4X2)8X5位冷還送スルヤモ知レズ注意ヲ要ス

3. 航空

昭和十七年五月以降太平洋艦隊擴充推定兵彙
遠爆聯隊×2 爆撃聯隊×3
戰爆襲撃聯隊×1 艦送機中隊×1
種別不詳聯隊×3

4. 陸上施設

上ノ4乃至中ノ4浦鹽港全島灣周邊高地ニ高角砲陣
陣地新設セラレタリ
「ソフガヴアニ」ヨリ「コロムソモリスク」間鐵道(蘇聯邦
軍事彙報第8號參照)本月ニ入り「アラスカ」

經由或ハ「モスクヴァ」「ヤクーツク」方面
ヨリ「ソフガヴアニ」向飛行機ノ行動活潑ニ
シテ且宗谷海峽ヲ通航スル蘇聯船舶(援蘇物資
積載)ノ「ソフガヴアニ」方向ニ回航スルモ
ノ増加セル實情ヨリ見ルモ本線道完成セル公
算大ナリ

5. 訓練

本月上旬ニ於ケル潜水艦ノ出動訓練毎週35
隻延70-100隻ナリ

6月21日現在可動推定

「エス」型 3 「エリ」型 7-9 「シチヤ」型

25-30 「エム」型 17以上

小規模ナル海上護衛訓練等ヲ認ムルモ艦艇通
信量日曜ハ激減スル等緊迫事態ニアルモノト
ハ認メラレズ

陸軍

1. 兵力 蘇聯邦軍事參考資料參照

2. 東送狀況 本年五月下旬ヨリ在歐兵力ノ一部
東送開始セリ、四月以前ノ轉用兵力ハ航空
(戰闘機: 襲撃機) 防空兵力ヲ主体トシ若干
ノ機甲、砲兵部隊ヲ含ミアリタルガ五月ニ入
リ航空機用兵力ヲ主トシ若干ノ砲兵部隊(主、
力ハ對戰車砲部隊) 自動車部隊ヲ東送セリ而
シテ五月中旬頃既ニ滿洲國東國境方面航空兵
備ノ充實ハ一應完了セルガ如ク爾後逐次函部

めくれず

乃至北部正面ニ移行セリ

尙余後機甲、砲兵（大口徑砲）ノ充實ヲ企圖
スベク既ニ重戦車（「カーベ」×56「スター
リ」×30）自走砲×79到着ノ情報アリ

3. 航空

未ダ大規模ナル改編ハ認メラレズ既往編成ノ
量的質的増強ヲ實施シアル算大ナリ

「カーベ」9「エリア」5 P 3 9 P 6 3ノ如
キ新鋭機及援蘇機補充セラレツツアリ

通信状況ヨリ判断スルニ「ウラーヘ」河谷ニ
アリシ遠爆兵團ハ「コムソリスク」方向ニ移動
向方面ニ有力ナル遠爆兵團ヲ編成シツツアル
ガ如シ

4. 施設

謀滿國境障地修築増強工事ヲ行ヒツツアルモ
特ニ我ヲ刺戟スル程度ニ非ス

5. 蘇軍ノ越境偵察飛行頻發シ五月十日以降
二日間七事件42機ニ達セリ

第四 後方關係

軍需品ノ集積貯藏ヲ開始セルモ未ダ活戰トハ言
ヒ難ク後方關係部隊ノ東送モ本格的ニハ實施セ
ラレ非ルガ如シ

第五 對滿煽動謀略

本月中旬以後在滿白系露人ヲ對照トスル露語
「ラヂオ」宣傳（放送局名「祖國」哈府附近ト

判斷ス）ヲ繼續シツツアリ太平洋戰況帝國ノ對滿
政策滿洲國ノ内政關東軍及特務機關ノ對露人政策
ノ誹謗等ヲ題材トシ極メテアクトキ宣傳ヲ實施シ
ツツアリ

電信機ヲ換替セル潜入謀者ノ活動、放火、滿軍部
ノ疲返リ等ノ諜略ヲ察知スルモ特ニ關東直屬ノ狀況
ト對照セラルルモノナク在滿露僑公使館ハ赤系露
人ヲ無用ノ對白刺戟ヲ抑制シツツアリ

（備考）6月22日第12回最高會議ニ於テ「老
年兵復員法案」上程セラレ參謀總長「アントーノ
フ」止法ヲ説明ニヨレバ赤軍ハ第15階級（42
才以上64才以下）ノ老年兵ヲ半歳後ニ復員スル
計畫ニシテ老年兵ハ現赤軍ノ約一割即約百萬ナリ
當日大將ノ説明ニヨレバ現在赤軍ニアル女兵約百
萬ハ復員セラレテ、換言スレバ戰時工業ノ一部ハ既
ニ平時産業ニ切り換ヘタルモノアルモ赤軍
ノ主力ハ當分世界情勢ニ備ヘテ現狀ヲ維持スル計畫
ナリト言フヲ得ベシ

尙「アントーノフ」大將ノ説明ヨリ推算セル現赤
軍兵力別表ノ如シ

（ 終 ）

乃至北部正面ニ移行セリ
尙後機甲、砲兵(大口砲)ノ充實ヲ企圖
スベク既ニ重戦車(「カ-ベ」×50「スター
リ」×30)自走砲×79到着ノ情報アリ

3. 航空
未ダ大規模ナル改編ハ認メラレズ既往編成ノ
量的質的増強ヲ實施シアル算大ナリ
「カ-」9「エリア」5P39 P63ノ如
キ新鋭機及援蘇機補充セラレツツアリ
通信状況ヨリ判断スルニ「ウラーヘ」河谷ニ
アリシ遠爆兵團ハ「コムソリスク」方向ニ移動
同方面ニ有力ナル遠爆兵團ヲ編成シツツアル
ガ如シ

4. 施設
蘇滿國境陣地修築増強工等ヲ行ヒツツアルモ
特ニ我ヲ刺戟スル程度ニ非ス
5. 蘇軍ノ越境偵察飛行頻發シ五月十日以降
二日間ト云件42機ニ達セリ

第四 後方關係
軍需品ノ集積貯藏ヲ開始セルモ未ダ活斷トハ言
ヒ難ク後方關係部隊ノ東送モ本格的ニハ實施セ
ラレ非ルガ如シ

第五 對滿煽動謀略
本月中旬以後在滿白系露人ヲ對照トスル露籍
「ラヂオ」宣傳(放送局名「祖國」哈府附近ト

受領票

右受領ス

昭和二十年 月 日

受領者(職官氏名印)

軍令部 職官殿

蘇聯邦軍機要報第	九	號
軍	別	號

對滿
人政策
實施シ
滿軍部
ノ狀況
赤系
テ「老
ト「4
(員スル
百萬ナリ
兵約百
一部隊
モ赤軍
ル計
ル現赤

判斷ス)ヲ
政策滿洲國
ノ排勝等ヲ
ツツアリ
電信機ヲ機
ノ疲返リ等
ト判斷セテ
人ヲ無用ノ
(備考)6月
年兵復員法
ヲ止大將
才以上54
計費ニシテ
當日大將
萬ハ復員セ
既ニ平時
ノ主力ハ當
ナリト言フ
尙「アジト
軍兵力別表

(終)

獨逸戰終期ニ於ケル赤軍兵力

	戰前 1939 頃	戰前=終期 倍數	戰 争 未 終 期	記 事
砲 兵		5		
砲 兵	7,000 (含後方3,000)	5	55,000	現在第一線 約 15,000
砲 兵	5,000	1.5	75,000 内 自 走 砲 25,000	現在第一線 砲 車 20,000 2月4日 砲 車 4,000 戰 争 後 半 期 = 自 走 砲 急 増 = 7
砲 兵	120	4	480 (1,000-1,100万)	
砲 兵				

